

景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

3 調査期間

平成28年2月1日(月)~12日(金)

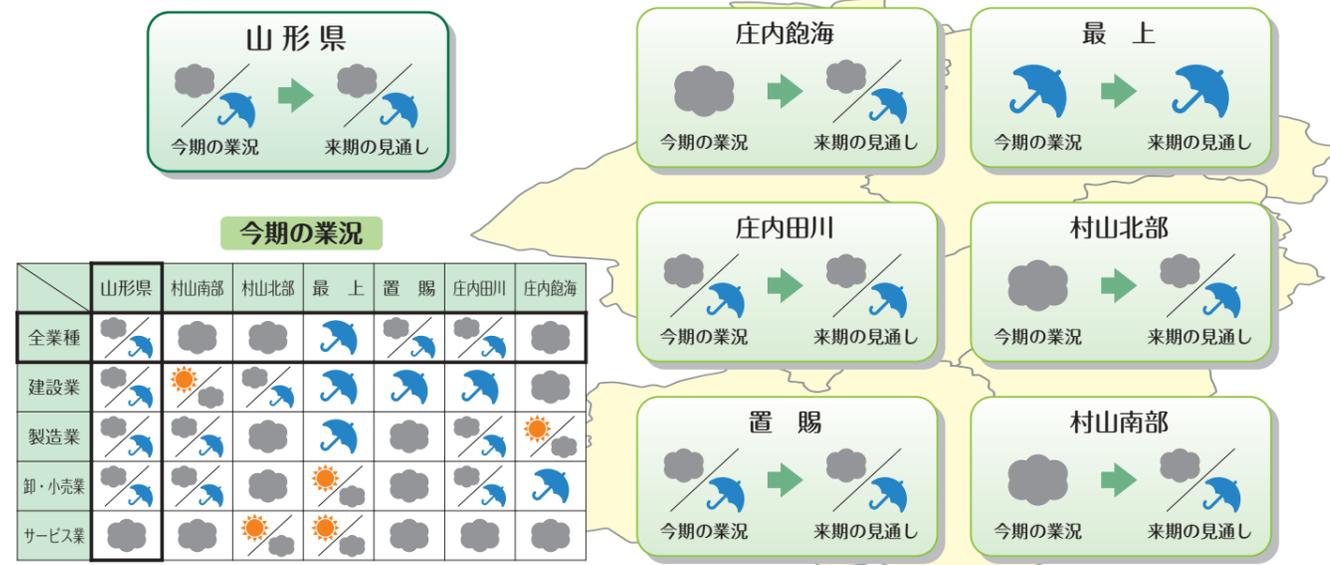
4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形712社、秋田642社
有効回答数 山形428社、秋田417社
回答率 山形60.1%、秋田65.0%

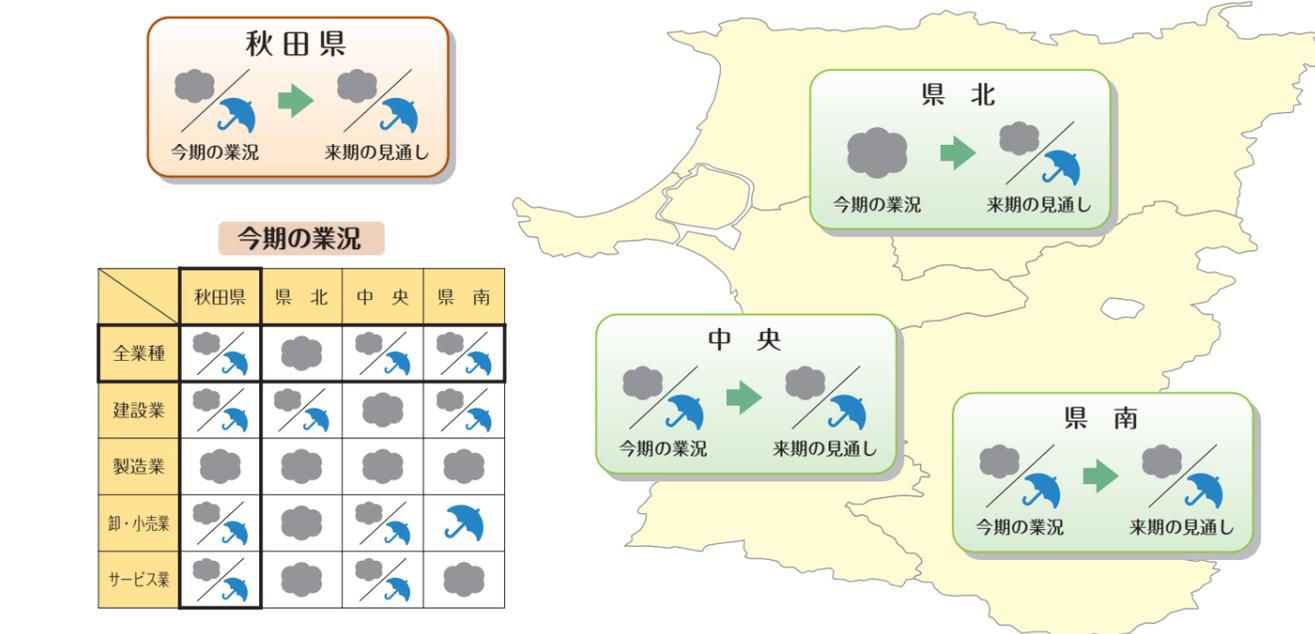
特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI \geq 30	30>DI \geq 10	10>DI \geq ▲10	▲10>DI \geq ▲30	▲30>DI

景気天気図

第46回「山形県内企業の景気動向調査」



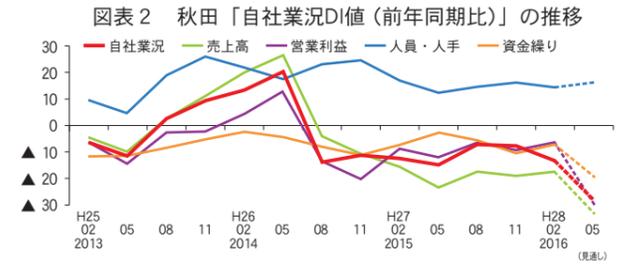
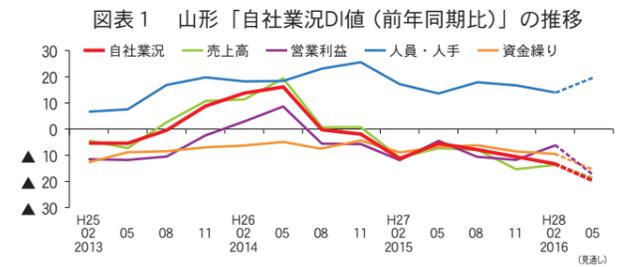
第19回「秋田県内企業の景気動向調査」



▶ 自社業況の動向

山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲13.1(前回調査比2.5ポイント下落)と3期連続で悪化した。「各種DI値(前年同期比)」をみると「人員・人手」「資金繰り」が悪化した。「売上高」「営業利益」はともに改善したものの依然としてマイナスで推移している。「自社の業況DI値(前年同期比)」は平成26年8月調査以降マイナスで推移しており、業況について慎重な見方が続いているものと考えられる。

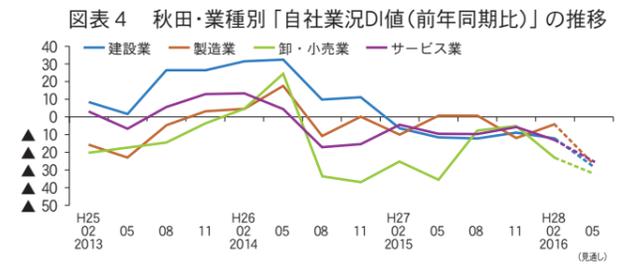
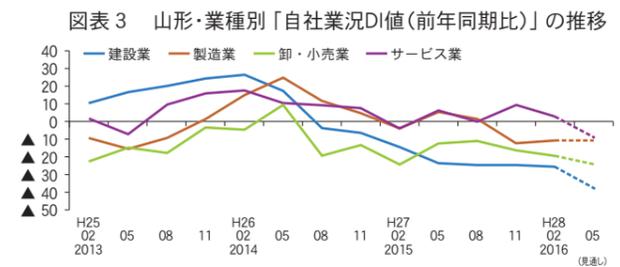
秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲13.4(前回調査比5.6ポイント下落)と2期連続で悪化した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「人員・人手」が小幅ながら悪化となった。秋田県においても足元は慎重姿勢が強まっている。



▶ 業種別の動向

山形県の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業がほぼ横ばい、製造業が若干改善となったものの、卸・小売業、サービス業については大幅悪化となっている。要因として、消費税増税以降の需要の低迷などが考えられる。

秋田県の業況(前年同期比)を業種別にみると、製造業が改善した一方で、建設業、卸・小売業、サービス業がいずれも悪化となった。公共工事の減少傾向や消費低迷などから業況の停滞感がうかがえる。



▶ 地域別の動向

山形県の業況(前年同期比)を地域別にみると、村山南部、置賜で改善したものの、村山北部でほぼ横ばい、最上、庄内田川、庄内飽海で悪化となった。

秋田県の業況(前年同期比)を地域別にみると、県北が改善した一方、中央と県南は悪化となった。県南ではDI値がマイナスに転じた。

